

パステル



特集 防災力を高めよう 災害に立ち向かう大田区へ

3.11の被災地、宮城県東松島市で今も支援を続ける大田区民ボランティア。

男女共同参画の視点からの防災
「日常の弱者を災害弱者にしない」

東日本大震災を経て、私たちは常に大きな自然災害と隣り合わせに
いることに気づかされました。

防災、減災を考えるうえで大事なことは、障がい者、高齢者、妊産婦など日常の弱者が災害時も弱者にならなってしまう点です。災害時だからといって、日頃やっていない特別なことはできないもの。だからこそ、ふだんから地域、隣人とならがり、老若男女が共に、防災を生活の一部として備える意識が大切です。

東日本大震災発災後は、避難所では女性専用スペースの設置や悩み相談の対応、情報の提供、交換など女性や子育ての視点を反映した取り組みが進められてきました。しかし、避難所による差が大きいことも事実でした。

昨年策定された「東日本大震災からの復興の基本方針」には、復興のあらゆる場・組織に女性の参画を促進すること、復興施策に男女共同参画、とくに女性の視点を反映することが明記されました。

CONTENTS

特集 「防災力」を高めよう P1~7

パステルおすすめ本 P3

びよたまクラブ P7

インフォメーション P8

女性のための「たんぼぼ相談」 P8

国の第三次男女共同参画計画でも防災分野での固定的な性別役割分担意識を見直すとともに、政策・方針決定過程への女性の参画の拡大を推進しています。

また、今年4月には首都直下地震などの際の「東京都の新たな被害想定」が発表され、大田区では都内最大規模の被害が発生するといふ厳しい想定結果が示されています。

そこで今回のパステルでは、大田区の防災力を高めるための知恵を特集しました。地域力を生かした防災や、避難所で起こり得ること、防災体験学習施設のレポート、被災地支援から見えてきたことなど、男女共同参画の視点を交えながら、防災の課題について考えます。